

## 地域における体験学習・体験活動の効果に関する研究<sup>†</sup>

鈴木佳苗<sup>\*</sup>

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科<sup>\*</sup>

本研究の主な目的は、地域における様々な体験学習・体験活動に期待されている効果と実感されている効果について検討することである。そこで、全国の29の機関・団体を対象として質問紙調査を実施し、今年度もっとも力を入れて行った体験学習・体験活動の種類と実施状況（開催時期・期間、対象年齢）、期待されている効果と実感されている効果について尋ねた。その結果、地域における体験学習・体験活動では、「自然体験」「ものづくり体験」「交流体験」が多く行われており、期待される効果としては、「コミュニケーション力がつく」「社会的スキルが高まる」「集団活動への参画意欲が高まる」が多く見られた。また、実感されている効果としては「コミュニケーション力がつく」「集団活動への参画意欲が高まる」「共感性が高まる」「社会的スキルが高まる」「思いやりの気持ちが高まる」が多く見られた。

キーワード：体験学習，体験活動，実施状況，効果，質問紙調査

### 1. はじめに

近年、体験を通しての子どもたちの学びが重視されるようになり、様々な地域で体験学習・体験活動の実践が行われている。また、文部科学省は、奉仕活動・体験活動の推進に関する施策として、これらの活動の情報収集、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むための体験活動、奉仕活動・体験活動の推進・定着のための研究開発などを示している（文部科学省 2007）。

日本の子どもたちの体験学習・体験活動の状況については、数多くの事例報告があり、具体的なプログラムについての情報が提供されている。また、文部科学省による実態調査や文部科学省委託の国際比較調査も行われており、日本の子どもの生活体験・自然体験が不足していることや、外国の子どもと比較して決められたお手伝いをあまりしていないことなどが示唆されている（平野 2000）。

体験学習・活動の効果については、自然体験（松下 2000）や社会科の体験学習（三井 1990）など、特定の体験の効果に関する指摘や意識の調査がある。しかし、

様々な種類の体験学習・体験活動を対象とし、これらが子どもたちにどのような影響を及ぼしえるのかを検討した研究は見られていない。様々な体験学習・体験活動に期待されている効果や実感されている効果を明らかにすることは、今後、現場で、あるいは学術的に体験学習・体験活動の効果を検討していくための有用な情報となりえるものと期待される。

そこで、本研究では、優れた体験学習・体験活動を行っている全国の機関・団体を対象とし、体験学習・体験活動の基礎情報として、今年度もっとも力を入れて行った体験学習・体験活動の種類と実施状況について尋ね、担当者が期待している効果と実感している効果について検討を行った。なお、本研究では、文部科学省初等中等教育局（2003）を参考に、体験学習・体験活動を「自分の身体を通して学ぶこと、実際に経験する活動」とする。

### 2. 方法

#### 2.1. 調査対象

Web (e.g., JT; 文部科学省 2006), 朝日新聞データベース（聞蔵）を用いて、これまでに表彰を受けたり、企業からの助成を受けたり、熱心に優れた体験学習・体験活動の実践を行っている全国の機関・団体のうち、調査への協力に了承の得られた29機関・団体を対象とした。本研究の調査対象数は大規模とはいえないが、

2007年4月2日受理

<sup>†</sup> Kanae Suzuki : A Study on the Effects of Experimental Learning or Activities in Communities

<sup>\*</sup> University of Tsukuba, 1-2, Kasuga, Tsukuba, Ibaraki, 350-8550 Japan

優れた体験学習・体験活動の実践を行っている機関・団体を対象とすることにより、子どもたちに見られる効果についての情報を収集しやすいという利点がある。最終的に、調査への有効回答が得られた機関・団体は、24機関・団体（回収率83%）であった。

## 2.2. 調査項目

### 2.2.1. 実施した体験学習・体験活動の種類

今年度どのような体験学習・体験活動を行ったかについて、次の11の選択肢の中から、あてはまる記号すべてに「○」を、もっとも力を入れて行った体験学習・体験活動1つに「◎」をつけるように求めた。なお、今年度に行った体験学習・体験活動が1つのみの場合は、その活動に「◎」をつけるように求めた。選択肢は、永田（2000）を参考に、「自然体験」「ものづくり体験」を加え、「a. 人間関係体験（協力・共同体験、社会的規範の体験など）」「b. 交流体験（触れ合い体験、かわり体験など）」「c. 異文化体験（国際理解体験、外国人との交流体験、外国語体験など）」「d. 社会生活体験（乗り物体験、買い物体験、施設利用体験など）」「e. 集団への参加体験（社会活動への参画、地域行事への参加など）」「f. 勤労体験（手伝い、美化清掃体験、生産活動、職業の体験など）」「g. ボランティア体験（介護的体験、奉仕的体験など）」「h. 文化や伝統に親しむ体験（祭り体験、史跡などでの体験など）」「i. 自然体験（野外生活、キャンプ、農業体験など）」「j. ものづくり体験」「k. その他（括弧内に体験学習・体験活動の内容を記述）」とした。

### 2.2.2. 2.2.1. でもっとも力を入れて行ったと回答した体験学習・体験活動の開催時期、期間

2.2.1.でもっとも力を入れて行ったと回答した体験学習・体験活動（以下では、「上記の体験学習・体験活動」と記載）の開催時期（月）について、「a. 4月」から「k. 2月」までの11の選択肢の中から、あてはまる記号すべてに「○」をつけるように求めた。

また、この体験学習・体験活動の期間について、日数と1日あたりの平均時間を自由記述形式で尋ねた。

### 2.2.3. 上記の体験学習・体験活動の対象年齢

上記の体験学習・体験活動の対象年齢について、「a. 就学前」「b. 小学校低学年」「c. 小学校高学年」「d. 中学生」「e. 高校生」「f. 大学生」「g. 社会人」「h. その他（括弧内に対象年齢を記述）」の8つの選択肢の中から、あてはまる記号すべてに「○」をつけるように求めた。

### 2.2.4. 上記の体験学習・体験活動に期待している効果と実感している効果

上記の体験学習・体験活動が①参加者に及ぼす効果として期待している点、②参加者に実際に効果があったと実感している点について、それぞれ次の18の選択肢の中からあてはまる記号すべてに「○」を、もっともあてはまる体験学習・体験活動1つに「◎」をつけるように求めた。選択肢は、永田（2000）などを参考に「a. コミュニケーション力がつく」「b. 共感性が高まる」「c. 思いやりの気持ちが高まる」「d. 社会的スキルが高まる」「e. 規範意識が高まる」「f. 集団活動への参画意欲が高まる」「g. 我慢する力がつく」「h. ものごとを深く考える力がつく」「i. 創造性が高まる」「j. ものごとに手間をかけるようになる」「k. 自立性が高まる」「l. 自己中心性が低まる」「n. ボランティア精神が高まる」「o. 命の大切さに気づく」「p.～r. その他（括弧内に効果の内容を記述：3項目）」とした。

## 2.3. 手続き

31の機関・団体に調査依頼文を郵送し、調査への協力の可否について、FAXにて返信してもらった。一部の機関・団体については、電話で尋ねた。調査への協力が得られた計29の機関・団体には、質問紙を郵送し、同封の返信用封筒にて返信を依頼した。質問紙のFax送信、電子ファイル送付希望のあった機関・団体には、それぞれ希望の方法で質問紙を送付した。

## 3. 結果・考察

### 3.1. 調査対象機関・団体における体験学習・体験活動の実施状況

#### 3.1.1. 実施した体験学習・体験活動の種類

今年度実施した体験学習・体験活動の総数では、「自然体験」「ものづくり体験」「交流体験」が14件でもっとも多かった。もっとも力を入れて行った体験学習・体験活動は、「自然体験」「人間関係体験」「異文化体験」の順に多く見られた。また、「その他」では、「通学合宿」「上記の組合せ」という回答が見られた（表1）。

#### 3.1.2. 上記の体験学習・体験活動の開催時期、期間

今年度実施した体験学習・体験活動の開催時期としては、半数以上の機関・団体で6月～10月に開催していた。17機関・団体では複数月に開催されており、その半数以上の機関・団体では同じ対象者が複数日や数カ月に渡り参加するプログラムが実施されていた。

1日あたりの平均時間については、回答を次の3つのカテゴリに分類した。その結果、「0～6時間まで」が16件、「6時間～12時間（半日）まで」が2件、「12時間以上」が2件であり、実施されている体験学習・

表1 実施した体験学習・体験活動の種類

体験学習・体験活動の種類	◎	○
a. 人間関係体験	4	8
b. 交流体験	2	12
c. 異文化体験	3	8
d. 社会生活体験	0	12
e. 集団への参加体験	0	10
f. 勤労体験	0	9
g. ボランティア体験	1	7
h. 文化や伝統に親しむ体験	1	10
i. 自然体験	7	7
j. ものづくり体験	1	13
k. その他	2	0

注:「◎」は、今年度もっとも力を入れて行ったもの、  
「○」は今年度行ったものの件数を表す。

体験活動の多くが半日以内のプログラムであった。

### 3.1.3. 上記の体験学習・体験活動の対象年齢

上記の体験学習・体験活動の対象年齢は、小学校高学年（17件）、小学校低学年（12件）、社会人（8件）、大学生（7件）、中学生、就学前（共に6件）、高校生（5件）の順に多かった。

### 3.2. 上記の体験学習・体験活動に期待している効果

上記の体験学習・体験活動で期待している効果として、半数以上の機関・団体が「コミュニケーション力がつく」「集団活動への参画意欲が高まる」「共感性が高まる」「社会的スキルが高まる」「思いやりの気持ちが高まる」と回答していた（表2）。

さらに、今年度もっとも力を入れて行った体験学習・体験活動として複数の機関・団体が挙げている体験学習・体験活動の種類ごとに、特に期待されている効果(◎の回答)を集計した。なお、以下で括弧内に件数記載なしの場合は1件を表す。その結果、自然体験では、回答数は6件であり、「社会的スキルが高まる」「我慢する力がつく」「ボランティア精神が高まる」「命の大切さに気づく」という期待があることが示された。「その他」の回答としては、「自然環境の大切さに気づく」「食べものの大切さを知る」という回答が見られた。

人間関係体験では、回答数は4件であり、「コミュニケーション力がつく（2件）」「社会的スキルが高まる」「自立性が高まる」という期待があることが示された。

異文化体験では、回答数は3件であり、「ものごとを深く考える力がつく」「創造性が高まる」という期待があることが示された。また、「その他」の回答として、「豊かな国際感覚が身に付く」という期待があることも示された。

交流体験では、回答数は2件であり、「コミュニケーション力がつく」という期待があることが示された。

「その他」の回答として、「自分と他人の違いが認められる」という実感が見られた。

### 3.3. 上記の体験学習・体験活動を通して実感している効果

また、実感している効果としては、半数以上の機関・団体が「コミュニケーション力がつく」「社会的スキルが高まる」「集団活動への参画意欲が高まる」と回答していた（表2）。

さらに、今年度もっとも力を入れて行った体験学習・体験活動として複数の機関・団体が挙げている体験学習・体験活動の種類ごとに、特に実感されている効果(◎の回答)を集計した。その結果、自然体験では、回答数は6件であり、「命の大切さに気づく」だけでなく、「共感性が高まる」「思いやりの気持ちが高まる」「社会的スキルが高まる」「我慢する力がつく」といった日常的な対人関係に必要な側面が高まっていたという実感があることが示唆された。「その他」の回答では、アウトドアでの料理体験を通して「調理器具を使いこなす」ことができるようになったという実感も見られた。

人間関係体験では、回答数は4件であり、「コミュニケーション力がつく（2件）」「社会的スキルが高まる」「自立性が高まる」という実感があることが示された。

異文化体験では、回答数は2件であり、「コミュニケーション力がつく」「社会的スキルが高まる」という実感があることが示された。

交流体験では、回答数は1件であり、「その他」の回答として、「自分と他人の違いが認められる」という実感が見られた。

### 3.4. 上記の体験学習・体験活動に期待している効果と実感している効果

半数以上の機関・団体が期待していた先述の5つの効果は、期待していると回答した4分の3以上の機関・団体において、いずれも効果として実感されていた。体験学習・体験活動は集団での活動が多く、仲間と円滑な関係を築く必要があることから、こうした側面に効果的であるかもしれないと考えられる。

一方、「ものごとを深く考える力がつく」「命の大切さに気づく」については、期待通りに効果が実感されていた機関・団体は、それぞれ半数以下と少なかった。

「ものごとを深く考える力がつく」は、異文化体験、ものづくり体験などが含まれる体験学習・体験活動で期待されていた効果であった。「命の大切さに気づく」は、主に自然体験が含まれる体験学習・体験活動で期

待されていた効果であった。これらには、いずれも集団での活動が多く含まれるため、コミュニケーション力、社会的スキル、思いやりなどの効果が担当者により実感され、期待される効果との間に違いが見られたのかもしれない。また、これらの側面は、コミュニケーション力、社会的スキル、思いやりなどに比べて体験学習・体験活動の担当者が参加者の様子を見て変化を実感することが難しい側面であることも考えられる。

先述のように、本研究の調査対象数は大規模とはいえ、結果の汎用性には注意が必要であるが、期待される効果として挙げられていた側面を含め、今後、体験学習・体験活動の効果を実証的に検討していくことが望まれる。

#### 4. 結 論

本研究では、主に、以下の2点が示された。

- (1) 地域の体験学習・体験活動に期待されている効果として、「コミュニケーション力がつく」「集団活動への参画意欲が高まる」「共感性が高まる」「社会的スキルが高まる」「思いやりの気持ちが高まる」などの回答が多く見られた。
- (2) 様々な体験学習・体験活動を通して実感されている効果として、「コミュニケーション力がつく」「社会的スキルが高まる」「集団活動への参画意欲が高まる」が多く見られた。

今後は、本研究の結果を踏まえて、体験学習・体験活動の効果を実証的に検討していくことが望まれる。

#### 付 記

本研究は、平成18年度日本学術振興会科学研究費補

助金（若手研究 B，課題番号：17730362，研究代表者：鈴木佳苗）の助成を受けて実施されたものである。

#### 参 考 文 献

- 平野吉直（2000）体験活動の意義。教育と情報，平成12年2月号：2-7
- JT “青少年育成に関する NPO 助成事業”（オンライン）。入手先<<http://www.jti.co.jp/JTI/contribution/npo/jissi2006/index.html>>（参照2006-04-02）
- 松下俱子（2000）体験活動に期待される教育効果。教育展望，46(6)：4-12
- 三井重彰（1990）体験学習の効用と実践事例：アンケート調査にみる教育的効用を踏まえて。社会認識教育学研究，5：23-27
- 文部科学省（2006）“第59回優良公民館表彰被表彰公民館一覧”（オンライン）。入手先<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou//18/10/06101701/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou//18/10/06101701/001.htm)>（参照2006-04-02）
- 文部科学省（2007）“文部科学省における奉仕活動・体験活動の推進に関する施策”（オンライン）。入手先<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/houshi/05112201.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/houshi/05112201.htm)>（参照2006-04-02）
- 文部科学省初等中等教育局（2003）体験活動事例集：豊かな体験活動の推進のために。ぎょうせい，東京
- 永田繁雄（2000）社会体験学習の展開と支援の方法。明治図書

(Received April 2, 2007)

表2 体験学習・体験活動に期待している効果と実感している効果

	①期待している効果	②実感している効果
a. コミュニケーション力がつく	17	13
b. 共感性が高まる	13	10
c. 思いやりの気持ちが高まる	12	11
d. 社会的スキル（対人関係を円滑にするスキル）が高まる	13	13
e. 規範意識が高まる	9	8
f. 集団活動への参画意欲が高まる	16	13
g. 我慢する力がつく	10	8
h. ものごとを深く考える力がつく	8	4
i. 創造性が高まる	11	6
j. ものごとに手間をかけるようになる	7	5
k. 自立性が高まる	8	8
l. 自己中心性が低まる	9	6
m. ボランティア精神が高まる	9	6
n. 将来の進路の決定に役立つ	4	4
o. 命の大切さに気づく	6	2
p,q,r. その他	9	8

注：①および②の数値は、「◎」「○」の合計件数を表す。